

## 小学校国語A

○伝わりやすい文章を書くように心掛けましょう。

〈A③〉県 17.3% 無県 12.5%  
全 23.4% 無全 10.2%

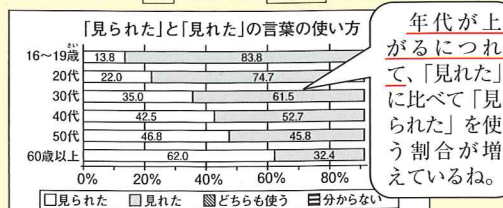
新しく委員になった5年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ほくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。→「だから」を使い、2文にする。

【ポイント】

「ので」や「～で」の多用は、1文が長くなり、内容が伝わりにくくなります。1文を短めにし、順接・逆説・並列等の接続語を文脈に合わせて適切に使うようにしましょう。

○グラフや図表を正確に読めるようにしましょう。

〈A④〉県 36.3% 無県 28.3%  
全 44.9% 無全 20.2%



【ポイント】

何を表しているグラフか確認した上で、凡例を基に、数量の大小や差異、全体的な特徴を捉えましょう。資料から読み取ったことを「…するにつれて…なる」などの言葉を用いて適切に表すことは、各教科等においても重要です。

## 【国語】授業づくりのポイント

1 言語活動を、単元を貫いて設定しましょう。2 調査問題や調査結果を活用しましょう。

一次 単元の導入で身に付けたい力に即した言語活動を示し、学習の見通しを持てるようにします。

二次 設定した言語活動に即して文章を読んだり、条件に合わせて自分の考えをまとめたりします。

三次 一次、二次で身に付けた力を利用して自力で課題を解決したり、言語活動を振り返ったりします。

一連の言語活動を通して子どもが身に付けた力を価値付け、自覚させましょう。



(1) 子どもの解答状況を分析しましょう。

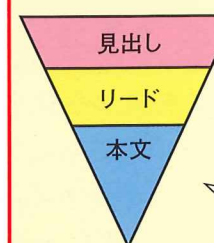
・どのような間違いをしているのか把握し、日頃の授業と結び付けてみましょう。  
・授業では、どの子も考えたり表現したりする場を保障し、無解答率の高さを克服しましょう。

(2) 調査問題を授業に生かしましょう。

どのような推薦文がモデルとなるのか(小国B③)、司会の役割とは何か(中国B①)等、調査問題を基に具体的にイメージしてみましょう。

(3) 国立教育政策研究所発行「授業アイデア例」を授業づくりに活用しましょう。

新聞記事の書き方の特徴とは…



新聞記事は、「逆三角形の構成」と呼ばれることもあるように、結論を見出しで先に示し、リードから本文へと次第に詳しく書かれています。見出しやリードを読むだけで、記事のあらましをつかむことができます。

【ポイント】

新聞以外にも、雑誌、パンフレットやガイドブック、説明書など様々な形態の文章を読み、書き方の特徴を捉えたり、自分に必要な情報を得たりしてみましょう。

※「あすなる学習室」ホームページ「国語の部屋」>表現の部屋(小学校高学年)>新聞に親しもう」参照

## 小学校国語B

目的や意図に応じてリーフレットを編集する。

〈B②〉県 15.6% 無県 21.6% (全 17.8% 無全 20.3%)

今村さんたちは、リーフレットの【下書きの一部】の「4 まとめ」について、【編集会議での町田さんと山下さんの意見】を受け、書き出しの文に続く内容を考えました。あとの条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉・【編集会議での町田さんと山下さんの意見】を受け、【下書きの一部】の「2 打ち上げ花火の種類」と「3 花火師の小野さんの声」の「イ つくり出す伝統」の両方から内容を取り上げて、書くこと。

・取り上げた内容について、あなたが考えたことを具体的に書くこと。・80字以上、100字以内にまとめて書くこと。

【リーフレットの表紙】

【下書きの一部】

【編集会議での町田さんと山下さんの意見】

リーフレットの表紙と下書きの一部の構成:

- 1 打ち上げ花火の歴史
- 2 打ち上げ花火の種類
- 3 花火師の小野さんの声
- 4 まとめ



町田さん 「4まとめ」には、題名「打ち上げ花火の伝統」に合う内容を書いたほうがいいと思うわ。書き出しの文は「歴史」に注目し、「1 打ち上げ花火の歴史」の内容をまとめているわね。



山下さん それに続く内容は、「現在」の打ち上げ花火に注目し、「2 打ち上げ花火の種類」と「3 花火師の小野さんの声」の「イ つくり出す伝統」の中に書かれている、現在における打ち上げ花火の形や色、打ち上げるときのくふうを取り上げて書いたほうがいいね。そして、最後に考えたことをまとめて書いたらどうかな。

現在における打ち上げ花火の特ちょうとして、「型物」の開発が進んでいることが挙げられる。「型物」とは、あるものの形になって星が飛び散るもので、最近では、土星や人の顔の形などになるようにくふうされている。

イ つくり出す伝統  
小野さんは、「現在、花火の色として、水色やピンク色などの中間色を使ったカラフルな花火を作っています。また、音楽に合わせて花火を打ち上げるなどの新しいちよう戦もしています。」と話していました。

4まとめ

打ち上げ花火は、およそ400年もの歴史をもった、日本のすばらしい伝統といえます。 ↓続きを書いてみましょう!

【誤答例】

現在では、水色やピンク色などの中間色も使ったカラフルな花火を作ったり、音楽に合わせて打ち上げたりしています。色や打ち上げにもくふうが加えられ、打ち上げ花火は今も進化していると思いました。

※山下さんの意見や【下書きの一部】において赤字で示した、花火の「形」について触れていない。

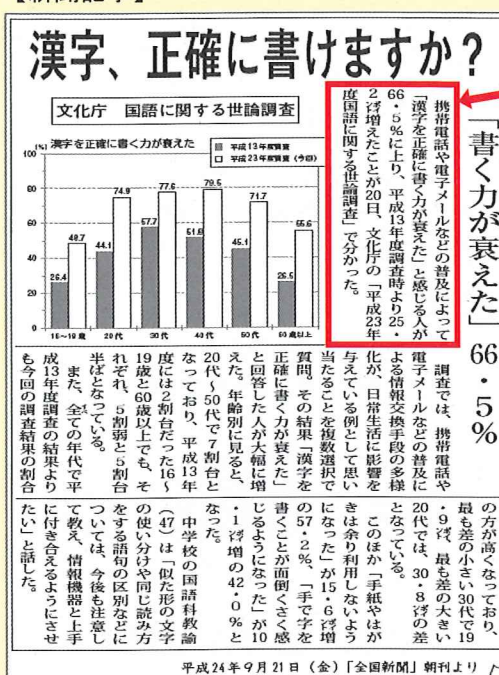
条件を満たして書くとはどのようなことなのか、条件に照らしながら具体的に指導しましょう。



## 中学校国語B

資料を参考に、条件に沿って自分の考えをまとめる。

【新聞記事】



〈B③〉 — 【新聞記事】の書き方の特徴を示したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。県 61.3% 全 61.0%

- 1 始めに要点をまとめた上で、具体的な数値を取り上げて詳しく書いている。
- 2 始めに書き手の意見を述べた上で、複数の見方を取り上げて多面的に書いている。 ※事実のみの記述であり、書き手の意見は述べられていない。
- 3 問題の解決方法を見出しで示した上で、グラフを用いて分かりやすく書いている。 ※見出しに書かれている情報を正しく捉えていない。
- 4 最新の情報を見出しで示した上で、出来事の流れを時間の経過に沿って書いている。 ※記事の本文の書き方の特徴を理解していない。

三 【新聞記事】を読んで、間違えやすい漢字を取り上げ、学習する際の注意点を中学1年生に説明することにしました。あなたならどのように説明しますか。(間違えやすい漢字の例)を次のA、Bから一つ選び、それを学習する際の注意点やコツをあとの条件1から条件2にしたがって、70字以上、110字以内で書きなさい。県 65.0% 全 64.6%

〈間違えやすい漢字の例〉

A 拾・捨 B 厚・熱

条件1 選んだ漢字の例について、二つの漢字の共通点や相違点など漢字の特徴を取り上げて書くこと。

条件2 条件1に応じて、二つの漢字を学習する際の注意点やコツを具体的に書くこと。 ↓書いてみましょう!

〈選んだ例〉

A B

どの条件でつまづいているのか明らかにし、適切な助言をしましょう。

—この問題に学ぶ授業づくりのポイント—

◇情報を関係付けながら考えをまとめる。

・取り上げるべき情報を的確に読み取るためには「中心を捉える(小学校3・4年)」力が重要です。

◇リーフレット、新聞、手紙などの「様式」を持った言語活動にも親しむ。

・それぞれの様式の特徴を踏まえ、「B書くこと」で身に付けた力を「C読むこと」等でも活用しましょう。

—この問題に学ぶ授業づくりのポイント—

◇目的や意図に応じて情報を収集し活用する。

・資料の特徴を捉え、必要な情報を効率よく探す読み方を身に付けましょう。

◇自分の考えが効果的に伝わるように書く。

・考えの根拠となる事実や具体例を示して説明することが必要です。取り上げた事実や具体例は、読み手がイメージできる適切な表現になっているか、読み返すようにしましょう。

【誤答例】

・B「厚」と「熱」は間違えやすい漢字である。しかし、意味を理解していれば間違えることはない。「厚い本を読む」(厚さ)、「熱いお茶を飲む」(温度)などそれぞれの漢字を使った例文を作って学習するのが最適だと思う。(101字)

※二つの漢字の特徴を適切に取り上げて書くことができていない。(条件1)

※二つの漢字を学習する際の注意点やコツは書けていない。(条件2)

・B「厚」と「熱」はどちらも「あつい」と読むので間違えやすいが、意味を理解していれば間違えることはない。「厚い本を読む」(厚さ)、「熱いお茶を飲む」(温度)などそれぞれの漢字を使った例文を作って学習するのが最適だと思う。(108字)